



開催日時 2010年6月5日(土) 13:00~16:45
(現地見学 13:00~、座談会 15:00~)

場所 天王川周辺、トキ交流会館

参加者 一般6名、関係機関5名、事務局9名

アドバイザー 5名(生態学2名、河川工学3名)

座談会進行役 桑子敏雄(東京工業大学大学院・教授)

高田知紀(東京工業大学大学院・博士課程)

アドバイザーと現地見学会を実施しました

今回は、水辺づくり座談会とアドバイザー専門会議を同時に開催しました。また、座談会の話し合いの前には、天王川における問題意識の共有化を図るため、現地見学会を実施しました。

現地見学会では、天王川の河口部から中流部までの状況を確認し、以下の問題点について認識を共有しました。

- ・三面張水路であり、生物が住みにくい環境であること。
- ・水面に近づけない状況であり、親水性に乏しいこと。
- ・河川と水田の連続性が乏しく、ドジョウ等の生物の移動が困難であること。



中流部再生後の維持管理について話し合いを行いました

植生の維持管理について

アドバイザーより、「中流部再生後は、放置しておくとも草が繁茂し、トキが降りられなくなる。また、中国では、牛を放牧して植生の維持管理を行っている。」という意見がありました。

この意見を受け、今後植生の維持管理について、他河川の事例を参考に、動物の導入について検討を行います。さらに、河川における流水の力を利用し、植生の繁茂を抑制する維持管理を目指します。このため、今後は、天王川における掘削拡幅後の河床材料調査を実施し、自然の力でどの程度植生繁茂を抑制することができるか、検討を行います。

維持管理の仕組みについて

アドバイザーより、「長期的に持続可能な、維持管理の手法を考える必要がある。」という意見がありました。

この意見を踏まえ、今後は、天王川中流域における10年、20年先の状況を想定し、長期的に持続可能な、地域に密着した維持管理の仕組みを考えていきます。

加茂湖漁協の要望

加茂湖漁協の組合長より、「天王川中流部の工事によって、加茂湖のカキ漁へ、悪い影響が出ることを非常に心配している。加茂湖の環境に配慮した施工を行うとともに、関係者の十分な理解を得てほしい。」という意見がありました。

この意見を踏まえ、工事を実施する際は、加茂湖の環境に十分に配慮した工法とします。さらに、地元での意見交換や説明会などを開催し、関係者の理解を得たいと思います。

中流部自然再生のイメージ

前回の座談会では、トキの飛来していない耕作放棄田水等を活用しながら、試験的に再生を進めていくという方向性で合意に至りました。

今回の座談会では、第8回で提示した中流部の自然再生イメージ(図-1)について、アドバイザーの意見を踏まえた修正案(図-2)を提示しました。

修正の内容：図-1の案では、河道周辺部だけを掘り下げた計画としていましたが、図-2では、耕作放棄水田区域も含めた、全体的に掘り下げを行う計画に変更しました。

この修正により、河川が自由に流れる範囲が広がります。このため、自然の営力(流水の力)によって、河道の蛇行が形成されやすくなり、様々な生き物が生息する自然環境が形成されるようになります。

また、この整備案により、現地で確認した現状の問題点も解消されます。



図-1 第8回座談会で示した
中流部イメージ図



図-2 アドバイザーの意見を踏まえた
中流部イメージ図

連携体制の構築について

佐渡市との連携について

佐渡市 生物多様性推進室 渡辺竜五室長より、天王川自然再生に関連する、佐渡市の取り組みについての報告がありました。主な内容は、次のとおりです。

佐渡市では、農業用水路や水田と河川をつなぐ水路の自然再生を展開しようとしている。

山から水田、川、湖、海までを一体的に捉えて自然再生を推進していきたい。

この報告を受け、今後は、佐渡市だけでなく、環境省や地域住民等の多くの人々で協働し、天王川の自然再生事業を推進していきます。

環境福祉と伝統文化の専門学校との連携について

座談会進行役の桑子先生より、金井の「環境福祉と伝統文化の専門学校」が天王川自然再生事業に関心があるとの報告がありました。

今後は、専門学校の学生が、環境技術教育の一環として、どのように天王川再生に関わることができるか、座談会で議論していきます。



座談会での話し合いの様子

次回の座談会について

次回の座談会では、再生後の具体的な利活用の方法について議論を行います。